国士舘大学新聞

題字は創立者
柴田徳次郎筆

発行所
学校法人国士舘
〒154-8515東京都世田谷区世田谷4-28-1
編集　広報課
☎ 03-5481-3115

Kokushikan

新学長に三浦信行教授

「研究力強化」など訴え

12月1日付発令、任期は3年

朝倉正昭学長の任期満了（平成24年11月30日）に伴う次期学長候補者選挙の第2回選挙が11月7日に行われ、三浦信行政経学部教授が選出された。理事会は即日これを承認し、新学長に三浦教授の委嘱・発令（12月1日付）を決定した。任期は3年。三浦教授は立候補に際し、過去3期にわたる学長在任中の実績を訴えるとともに、学生の学習支援体制とキャリア教育の強化、外部資金導入による研究力強化、東日本大震災への復興支援・防災教育の推進などを掲げた。

三浦信行教授

選挙に先立ち、理事会は「学長候補者選挙管理委員会」を設置し、7月25日付で委員を委嘱。第1回委員会を9月19日に開催し、入澤充法学部教授を選挙管理委員長に選出した。同委員会は、選挙の公示、学長候補者届け出締め切りなどの日程を決定し、10月17日に学長候補者を公示した。

また、各候補者による立会演説会を10月22日から24日までの3日間、各キャンパスで実施した。

立候補者は、三浦信行政経学部教授、小倉收同教授、池田十吾同教授、清水敏寛理工学部教授の4人（届け出順）。10月31日の第1回選挙では、有効投票の過半数を得た候補者がいなかったため、「国士舘大学学長に関する規則第14条第3項」に基づき、有効投票数の上位2人の三浦候補と小倉候補で決選投票を行った。結果は次の通り。

■開票結果（第2回）
三浦信行候補　213票（有効投票数の60・7％）
小倉　收候補　138票（有効投票数の39・3％）

◇

●三浦　信行（みうら・のぶゆき）政経学部教授。学校法人国士舘教学顧問。昭和46年国士舘大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程修了。同47年政治学博士（国士舘大学）。昭和17年生まれ、70歳。宮城県出身。専門は政治学。

昭和46年本学に入職。同61年学校法人国士舘評議員、同62年政経学部二部学部長を経て、平成4年国士舘大学副学長・同短期大学副学長。同6年から15年まで同学長、学校法人国士舘理事を務めた。ほかに、日本法政学会理事長、世田谷区特別職報酬等審議会会長、世田谷区名誉区民選定委員などを務める。

3期・9年間の学長在任中には、国際化・情報化・生涯学習の推進を掲げて海外に学術交流協定校を拡大し、学生・教員の交換留学・研究の活性化を図るほか、生涯学習センターを設置し、大学の研究・教育機能を広く社会に開放するための基盤づくりを進めた。また、21世紀アジア学部、体育学部スポーツ医科学科の開設などにより特色ある教育を打ち出すとともに、大学院に5研究科を開設し高度専門教育の充実を図った。

清水敏寛教授

池田十吾教授

小倉收教授

■他の立候補者の略歴■

●小倉　收（おぐら・おさむ）政経学部教授。生涯学習センター長。専門は国際経済論。昭和47年国士舘大学大学院政経学研究科経済学専攻博士課程単位取得退学。昭和50年本学に入職。政経学部二部学部長、政経学部長、学校法人国士舘評議員、同理事を歴任。

●池田　十吾（いけだ・そうご）政経学部教授。日本国際政治学会評議員、日本危機管理学会会長。専門は外交史。昭和51年国士舘大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。平成15年政治学博士（東海大学）。昭和46年本学に入職。学長室長、大学院政治学研究科委員長などを歴任。

●清水　敏寛（しみず・としひろ）理工学部教授。学校法人国士舘評議員、国士舘大学副学長、図書館・情報メディアセンター長。専門は脳科学。昭和48年早稲田大学大学院理工学研究科応用物理学専攻博士課程修了。同年理学博士（早稲田大学）。同51年本学に入職。大学院工学研究科委員長、工学部長を歴任。

62人が新たな仲間に

新入生を代表し宣誓文を読み上げるリュウさん

9月入学式

本学は、平成24年度9月入学式を9月21日、世田谷キャンパスの多目的ホールで挙行した。朝倉正昭学長、大澤英雄理事長をはじめとする学園役職者と教職員が列席し、21世紀アジア学部の新入生62人の入学を祝った。

朝倉学長は式辞で、国士舘の歴史と教育理念を説明するとともに、「誠意・勤労・見識・気魄の四徳目を体得し、アジア地域に貢献する人材となるよう期待する」と、新入生らに語りかけた。

大澤理事長は、「友との出会いは人生に新しい力をもたらす」と祝辞を述べ、本学での出会いを大切にし、日本と母国の架け橋となるよう呼びかけた。

学部長あいさつでは梶原景昭学部長が、「難問が横たわる日本と中国だが、学問の府においては国籍を問わない。個々の交流を大切にし、学業に専念してほしい」と激励した。

続いて、新入生を代表してリュウ・カキさん（中国）が「今日の感動を忘れず、勉学に励み、母国と日本の友好親善に貢献したい」と宣誓した。これを受け、在学生代表の矢作淳さん（21ア3年）とタクィルバシェワ・ケレザさん（同2年）が「学生生活が充実するか否かは自分次第。私たちは全力でサポートする」と歓迎の辞を述べた。

最後に全員で舘歌を斉唱し、閉会した。

救急システム研究科博士課程 来年度開設へ認可申請

本学は、大学院救急システム研究科の博士課程の平成25年4月開設について、理事会・評議員会の承認（同23年5月25日）を経て、同24年5月31日に文部科学大臣あてに申請した。入学定員は3人。

博士課程は、病院前救急医療の研究をリードし、災害・防災の危機管理能力を身につけた医療従事者養成が主な目的。授業は救急医療体制・政策、病院前救急症候・鑑別診断、災害医療・防災・災害危機管理マネジメントの3分野で構成される。

出願に際しては救急救命士などの医療資格は必ずしも必要としない。

同研究科の修士課程は、救急救命士に対する教育者を養成するため平成22年4月に開設。博士課程では、より高い専門性や研究の継続を望む社会的要請に応える。

「スポーツ法コース」開設へ

法学研究科修士課程

本学は、大学院法学研究科修士課程に「スポーツ法コース」を設け、平成25年4月に開設する。教育機関の体育指導者をはじめ、スポーツマネージャー、プランナーなどのスポーツにかかわるトラブルを仲裁するなど、スポーツを取り巻く法律の専門知識を備える人材育成を目指す。

昨年8月に施行された「スポーツ基本法」では、トップアスリートへの支援や地域スポーツの活性化などスポーツに関する基本理念や施策の基本事項を定めている。今年3月には同法の規定に基づき「スポーツ基本計画」が公表された。スポーツ法コースの設置は、こうした社会的背景に基づいている。

同研究科には、「税法・ビジネスコース」「基幹法コース」も設置する。

「マチュピチュ遺跡」修復 西浦教授らが着手

日本調査隊

イラク古代文化研究所の西浦忠輝教授（保存科学）＝写真＝を代表とする日本調査隊が、南米・ペルーのマチュピチュ遺跡の修復に向けた取り組みを始めた。保存・修復技術を現地に伝え、劣化を食い止めることが目的。

西浦教授のほか柴田英明理工学部教授、小野勇同職員ら本学教職員と関西大の研究者らは今年8月下旬から1週間、同遺跡に滞在。ペルー文化省職員らとともに測量や神殿の割れた基礎部分を接着剤で接合するなどの修復を行った。

世界遺産に登録される標高約2400㍍の高地に築かれた同遺跡のなかで、最も重要な建物とされる「太陽の神殿」は劣化が進み、現在は立ち入りできない。

ペルー政府から要請を受けた西浦教授らは、2010年9月（乾季）と今年3月（雨季）、最も気象条件の厳しい時期に現地を訪れ、遺跡を調査。同神殿の積み石に使われる花崗岩の内側だけが著しく劣化していることを確認した。花崗岩は熱に弱いとされ、100年前の発掘時に伐採した樹木をこの神殿内で焼却したことが原因といわれている。

西浦教授は「過酷な気象条件のなか、長期間にわたり風雨にさらされたことも劣化の大きな要因」と分析する。また、3年で終了する調査期間を踏まえ、「今後は本格的な修復に向け、JICA（国際協力機構）と資金や人的支援などを協議したい」と話す。

同教授は、これまでも数多くの文化遺産保存修復事業に参画。カンボジアのアンコール遺跡群、タイのアユタヤ遺跡、中国の敦煌莫高窟などの修復を手がけた。

＝5面に関連記事

太陽の神殿内部の祭壇と思われる天然岩を合成樹脂で再接合処理する日本のメンバーと、真剣に見つめるペルーの担当者たち

ホームカミングデイで350人が旧交温める

懇親会では新体操部演舞も

本学は、第12回ホームカミングデイを11月3日、世田谷キャンパス10号館多目的フロアで開催し、卒業生、教職員ら約350人が集い、旧交を温めた＝写真。

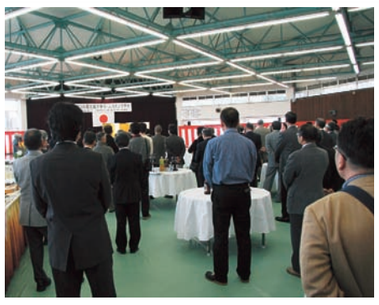
今年のメインゲストは、昭和38年、同48年、同58年、平成5年、同15年の卒業生。会場では、恩師や友人らとの再会を喜び合う姿があちらこちらでみられた。

懇親会に先立ち、朝倉正昭学長、大澤英雄理事長が歓迎のあいさつと国士舘の現況を述べ、卒業生らに理解と協力を呼びかけた。

懇親会では、ロンドン・オリンピックに出場した21世紀アジア学部1年のサイード横田仁奈選手と松原梨恵選手をはじめとする新体操部の選手たちが華麗な演舞を披露した。

また、吹奏学部が各世代の流行曲を演奏するなど、会場は和やかな雰囲気に包まれた。

40年ぶりに訪れたという卒業生は「施設が充実していて驚いたが、当時のままの建物も残っていて、懐かしい気持ちでいっぱいになった」と話し、同期生らと思い出を語り合っていた。



大連事務所閉鎖

本法人は中国・大連に設置されていた国士舘大学大連事務所を8月31日付けで閉鎖した。同事務所は平成21年、中国での学生募集活動や本学に在籍する留学生の父母との連絡窓口として、協定校である大連外国語学院の付属施設内に開設。

このほど同学院の主要施設が旅順へ移転し、同事務所の入る施設も老朽化による解体が決まったことなどから閉鎖することになった。なお、グローバルアジア研究科などのサテライトキャンパスは、大連に残る同学院の施設内で継続する。

柴田梵天舘長が逝去

国士舘 柴田家 合同葬に800人参列

学校法人国士舘の柴田梵天舘長には10月14日、老衰のため自宅で逝去された。95歳。

昭和16年早稲田大学法学部を卒業し、同30年同大学法学研究科修士課程修了。同49年経済学博士（国士舘大学大学院経済学研究科）。

大学卒業後、昭和16年国士舘中学校教諭として入職。同30年国士舘短期大学講師、同38年国士舘大学教授。国士舘大学副学長、学校法人国士舘理事を経て、同48年学校法人国士舘理事長・総長。同59年学校法人国士舘舘長。

柴田舘長は国士舘創立の大正6年に生まれた。創立者・柴田德次郎を父に持ち、総長就任後は、本学の教育理念である文武両道教育の海外への普及などに努めた。

□■□

葬儀などは、柴田家と本法人の合同葬として執り行われ、10月18日に通夜、同19日に葬儀・告別式が、それぞれ世田谷区の勝国寺でしめやかに営まれた。葬儀委員長は学校法人国士舘・大澤英雄理事長、喪主は本学政経学部教授で長男・柴田德文氏。勝国寺には、学生・教職員、卒業生をはじめ、教育界、政財界から約800人が訪れ、故人をしのんだ。

葬儀・告別式は午前11時に開式。読経に続き、本学の朝倉正昭学長が弔辞を述べた。朝倉学長は、建学の精神を堅持しつつ進取果敢の姿勢で学園発展に導いた柴田舘長の功績を紹介し、「国士舘関係者一同は、教育に情熱を傾けた舘長の教えを受け継ぎ、さらなる学園発展にまい進する」と誓った。

また、本学職員の福本正幸氏が卒業生代表の弔辞を述べ、「当時、総長だった柴田先生の秘書として入職した私に、いつも慈愛に満ちた態度で接してくださった」と時折涙で言葉を詰まらせながら遺影に語りかけた。柴田舘長が国士舘創立の年に誕生したことにも触れ、「国士舘と共に歩んだ生涯だった」と読み上げた。

弔電披露の後、柴田家の菩提寺である鎌倉・円覚寺の管長・横田南嶺導師による読経のなか、臨済宗の儀礼に従い遺族、参列者らが焼香した。

最後に、葬儀委員長の大澤理事長が本法人を代表してあいさつした後、喪主の德文氏が、参列者らに対し会葬の御礼を述べた。

棺を乗せた霊柩車は午後1時、大勢の参列者に見送られ、勝国寺を出棺。本学世田谷校舎正門前でいったん停車し、長いクラクションが鳴らされると、整列した学生・教職員らは一斉に手を合わせ冥福を祈った。

戒名は「興國院大覺梵天居士」。式場には100基を超える供花が寄せられた。写真は弔辞を述べる朝倉学長

今号の紙面

▼全学挙げて防災強化に取り組み・防災総研がシンポジウム、防災リーダー養成講座など……【2面】
▼「楓人辞典」法学部・五島京子教授……【3面】
▼海外日本語教育インターンシップ体験を学生らが報告……【3面】
▼「就活への意識変化」学生らがインターンシップの成果発表……【4面】
▼学生が寄稿「ヨルダンで考古学実習体験」……【4面】
▼北京で在外研究の国広教授が中国の建築事情をルポ……【5面】
▼剣道・全日本学生優勝大会で4年ぶり14回目の優勝……【6面】

■国士舘大学新聞はウェブサイトでもご覧になれます■

http://www.kokushikan.ac.jp/information/disclose/report_2012.html

※年4回発行です。次号は1月下旬を予定しています

国士舘創立100周年記念事業の寄付金募集

■募金の趣意

本学園は、平成29年に創立100周年を迎えるにあたり、国士舘創立100周年記念事業により平成18年4月から教育の内容と組織そして施設・設備の両面にわたる総合的な整備を進めています。

この事業の総資金200億円のうち50億円を学生・生徒のご父母・保護者、卒業生、教職員のほか、広く各界の方々からの寄付によりご援助をいただく計画とし募金活動を進めております。お蔭様で多くの方々のご賛同を賜り、貴重な浄財をご寄付いただいております。第1期の事業は予定どおり進行し学部の改組、学科の新設、教育棟の新築などそれぞれ完了し、第2期の事業に着手しております。

引き続いてご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

●**募金総額：50億円**　　**募集期間：平成18年4月～平成30年3月**

●**募金方法**：創立100周年記念事業募金委員会から、別途ご本人あてに募金の依頼状をお送りさせていただいております。なお、申込書をご入用な方は、募金事務室あてにご請求下さい。

▲世田谷キャンパス複合施設の完成予想図（平成24年11月完成予定）

■事業の概要

期別	事業項目	事業内容
第1期 18/4～20/3	世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎 教育施設の総合整備 教育・研究組織の再整備	総合教育棟の建設 研究・教育棟の建設 新学部の設置・学科の改編
第2期 20/4～25/3	町田、多摩キャンパス 教育施設の再整備 世田谷キャンパス	教育施設・設備のリニューアル 厚生施設の充実・環境整備 中高施設・環境整備
第3期 25/4～30/3	世田谷キャンパス 再開発整備	既存建物の建て替え 環境整備
通期	教育振興 修学支援事業 年史編纂事業	奨学基金の充実 スポーツ・文化活動の振興支援 100周年史の編纂
総事業費		200億円

※上記の「事業内容」は、計画の具体化により、若干の変更を伴います。

■寄付金募集の報告

国士舘創立100周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多数の皆様から心温まるご支援をいただきました。ご芳志に感謝申し上げます。

●寄付者数（平成24年9月30日現在）

区分	寄付者数	寄付額(円)
篤志者	30	3,981,000
卒業生	640	29,689,000
学生・生徒のご父母	275	33,856,000
教職員等	194	107,786,730
法人・団体その他	81	252,233,460
合計	1,220	427,546,190

※寄付者数は、同一人物の方が同じ寄付者区分で複数回寄付をされている場合、重複して算出されています。

■資金の概要

総事業費……200億円
うち学園資金……150億円
うち寄付金……50億円

●ご寄付受入先金融機関

○三井住友銀行：経堂支店
預金種別：普通預金　口座番号：6765802
名義：学校法人 国士舘 募金口（ガッコウホウジンコクシカンボキングチ）

○ゆうちょ銀行（郵便局）：郵便振替口座
口座記号番号：00120－0－428129
加入者名：学校法人 国士舘 募金口（ガッコウホウジンコクシカンボキングチ）

募金についてのお問い合わせ
学校法人 国士舘　募金事務室
創立100周年記念事業募金委員会
（世田谷キャンパス10号館2階）
〒154－8515
東京都世田谷区世田谷4－28－1
電話：03－5481－3107　ＦＡＸ：03－3413－7420

2017 Kokushikan 100th Anniversary 国士舘創立100周年記念事業